

第 15 回 東日本大震災アーカイブワークショップ議事要旨

日 時：令和 4 年 1 月 12 日（水）14：00～15：00

場 所：Webex（Web 会議）

出席者：岩手県立図書館（＊） 佐藤 奈津子、木村 玲

宮城県図書館 加藤 奈津江、木藤古 礼花

仙台市民図書館 榊 裕子、星 博之

福島県立図書館 加藤 麻依子、石川 ひとみ

岩手大学図書館 遠山 正宏

福島大学附属図書館 小沼 郁子、門間 泰子、鈴木 舞香、芦原 ひろみ

国立国会図書館 相原 雅樹

防災科学技術研究所自然災害情報室 三浦 伸也、池田 千春

防災専門図書館（防災科学技術研究所客員研究員） 堀田 弥生

東北大学附属図書館 細川 聖二、真籠 元子、永澤 恵美、影山 啓太（事務局）

凡 例：（＊）岩手大学図書館へ来訪による Web 会議参加

配付資料：

資料1. 第14回 東日本大震災アーカイブワークショップ議事要旨

資料2. 各機関の活動報告書 ー震災記録の収集を中心にー

1. 開会

議事に先立ち、出席者より自己紹介を行った。

2. 前回の議事要旨確認

資料 1 に基づき、前回第 14 回の議事要旨の確認について説明があった。また、議事内容は、内部資料を除く要旨形式で WEB 公開する意向の説明があった。これらについて、本ワークショップ終了後までの確認依頼があった。

3. 各機関からの活動報告

各機関より資料 2 に基づき、前回からの変更点・今年度の活動・特記事項を中心に報告を行った。以下各館の事項は口頭説明の要点記載につき、詳細は資料 2 を参照のこと。

（1）岩手県立図書館

- ・収集点数が年々減って来ていたが、震災 10 年からか図書が昨年度比で特に増えた。
- ・岩手県立大学と共同研究を実施してきたが、現在は研究協力という形で継続している。
- ・企画展「東日本大震災 10 年」を開催（2～5 月）。本ワークショップの企画展の巡回展

として書棚ポスターの縮小版なども展示。

(2) 宮城県図書館

- ・収集資料は昨年度比で 379 点増加。
- ・今年度からは専任担当者 6 名体制に。1 名兼任だったが全員専任担当に。
- ・「東日本大震災文庫」:「空中写真」の整理・公開実施。現在は「チラシ」資料を整理中。
- ・「東日本大震災アーカイブ宮城」:メタデータの精査、職員による被災地訪問撮影写真を公開。連携市町村担当者向けの研修動画作成・配布。
- ・例年通り企画展（12 回目）を 3 月より実施予定。

(3) 仙台市民図書館

- ・収集資料は、担当者の印象としては、震災 10 年による見込み程は増えず微増。
- ・チラシ・パンフレットといった資料類も整理・公開を進め、蔵書増へつなげたい。
- ・「ひなぎく」へのデータ提供が遅れてしまったが、秋に実施済み。近日公開予定。
- ・継続してきた「3.11 震災文庫を読む」コラムを、震災 10 年として小冊子にまとめ配布。
- ・11 月より電子図書館サービス開始。震災文庫資料も 70 点ほど公開。今後も積極的に公開していきたい。
- ・外部施設「せんだい 3.11 メモリアル交流館」へ提供の震災資料拡充。
- ・「仙台防災未来フォーラム 2021」（3 月 5・6 日）での書棚ポスター展示。

(4) 福島県立図書館

- ・2021 年 2 月の福島県沖地震により館内設備が破損。現在も復旧作業が完了していない。3 月 11 日の開館再開が最優先となり震災 10 年イベント等が十分に実施できなかった。
- ・2021 年 3 月に企画展は実施したが、震災 10 年誌を出版する団体も多くそれらの資料も含め 2022 年 3 月にあらためて資料展示を実施予定。

(5) 岩手大学図書館

- ・収集資料は昨年度比で図書 128 冊、雑誌 30 冊、一枚もの・会議資料等 69 点増。
- ・増加点数も少なく震災 10 年企画の実施も難しかった。収集体制に課題があり、兼任担当者と統括の 2 名体制のため、見直して、積極的な収集に努めたい。

(6) 東北大学附属図書館

- ・収集資料は昨年度比で図書・雑誌約 200 冊ずつ増加。
- ・館内企画展「東日本大震災 10 年と東北大学附属図書館」開催（2021 年 2～3 月）。
- ・「図書館雑誌」2021 年 3 月号（特集：東日本大震災から 10 年）に寄稿。『東北大学附属図書館における東日本大震災後の資料収集と活動について』。

- ・「国立国会図書館第 32 回保存フォーラム」(2021 年 12 月～2022 年 1 月)にて事例報告。『東北大学附属図書館における所蔵資料の防災について』。

(7) 福島大学附属図書館

- ・今年度から収集担当(兼任)が 3 名から 4 名体制に。
- ・本ワークショップ企画展の巡回展として、館内でパネル展示(2021 年 3～4 月)を実施。学内へ向けた資料収集の広報・周知も目的とした。
- ・学内他部局の支援により、2011 年 3 月以降の新聞原紙製本作業の実施が決定。

(8) 国立国会図書館

- ・東日本大震災関連の民間ウェブサイト収集について、収集機関が 600 機関を突破。
- ・「ひなぎく」収集コンテンツ数が約 5 万件に増加。メタデータ連携機関 2 機関、閉鎖アーカイブのデータ承継機関 2 機関増加。
- ・「資料デジタル化基本計画」が改訂。「2021-2025」版に。
- ・「国立国会図書館と県立図書館の震災記録に関する協力連絡会議」終了による最終報告書を公開(5 月)。
- ・東北大学災害研と共催の「東日本大震災アーカイブシンポジウム」を例年同様 1 月実施。
- ・「図書館総合展」(11 月)に参加し「ひなぎく」ポスター展示。
- ・「防災推進国民大会 2021」(11 月、岩手県釜石市で実地開催)にて「ひなぎく」ポスター展示。ウェブサイト上で広報動画も公開。

(9) 防災科学技術研究所自然災害情報室

- ・本ワークショップ企画展の巡回展として書棚ポスターを他機関に貸出。上述の報告機関のほか、大分県杵築市立図書館からも申請があり提供(5 月)。
- ・「図書館総合展」に参加。オンラインフォーラム主催ほか、動画コンテンツ作成・公開、本ワークショップ参加機関の災害アーカイブ担当者インタビュー動画の作成・公開を実施。サテライト会場のキハラ株式会社屋にて書棚ポスター展示。

(10) 防災専門図書館

- ・「東日本大震災 10 年」企画展実施(2021 年 3 月～)。
- ・「熊本地震から 5 年」企画展実施(2021 年 4 月～)。
- ・「図書館総合展」に参加。ポスターセッションやパネル展示、動画コンテンツ公開を実施。
- ・「防災推進国民大会 2021」参加。現地でのワークショップ開催ほか WEB 出展。

また、これらの内容に対し、展示イベントに対する反応や、資料整理の方法、担当人員増加の理由、などの質疑応答があった。

4. その他

- ・災害アーカイブ担当者インタビューの感想について

防災科学技術研究所担当者から、協力いただいた各機関のインタビューや視聴の感想などについての質問があった。各機関からは、当時の記憶を掘り起こす良い機会になった、インタビューを見てはじめて知ることもあり新鮮だった、今後の担当者などに参考にしてもらえれば、などの感想があった。

防災科学技術研究所からは、各機関の協力へのあらためての御礼と、本ワークショップの成果として今後の利活用を期待したいとの報告があった。

- ・次回ワークショップの日程

事務局より、本ワークショップの次回の日程について、2022年12月頃に開催の見通しである旨説明があった。

以上